



BβEテTルH通E信L

2022年9月号（第230号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 TEL089-925-5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>



教育プログラムについて

こんにちは。がん看護専門看護師の上杉です。

今回は、私が長く携わっている看護師の教育プログラムについてご紹介したいと思います。

そのプログラムは「ELNEC-J（End-of-Life Nursing Education consortium Japan）コアカリキュラム」といいます。

これは、病いや老いなどにより人が人生を終える時期に必要な看護ケアについて講義（症状緩和や心理社会的な内容）はもちろん、患者役と看護師役を決めてその人になりきって疑似体験する（コミュニケーション学習）も含み、2日間をかけて系統立てて学ぶことのできるプログラムになっています。そして日本緩和医療学会が中心となってすべての人に質の高い人生の最終における質の高い看護ケアを提供するというスローガンのもと2009年から全国の看護師に対して研修が開催されているものです。

このプログラムが目指しているのは、高齢多死社会である日本において、どんな病気であってもどんな国や文化を持つ人でも、治癒が困難になったとき人生の最終時期にできる限りの質の高い看護ケアを提供できる看護師の育成です。松山ベテル病院にもこの「ELNEC-J コアカリキュラム」を受講した看護師が20人近くおり、受講した人は必ず「受講して良かった」という感想を述べてくれます。日頃行なっている看護をじっくり意味付けしながら自分に取り込むことで、キャリアアップにつながっているのではないかと思います。

今年もコロナウイルス感染予防対策でリモート開催になりますが、ともにこれからもより一層看護の質の向上をめざし頑張りたいと思っています。

（がん看護専門看護師 上杉和美）





亀甲竜成長記～その1～



皆さんは亀甲竜（きっこうりゅう）という植物をご存知ですか？



【 写真1 】

亀甲竜は、南アフリカの乾燥地帯に自生する多肉植物。日本でも古くから愛好家のあいだで栽培されてきた人気植物です。

写真1をご覧ください。

中央にある大きなじゃがいもみたいな部分を塊根（かいこん）といいます。本来この部位は土中で生育し、根を土中深く下方へつるを上方へ伸ばして葉を展開していきます。葉は写真のように愛嬌のあるハート形です。全体が成長すると塊根の上部が土中から出てきてひび割れを起こし、カメの甲羅のように見えることが和名の由来だそうです。

実際は国内で販売されている個体の多くは、園芸的な観賞価値のために、塊根のほとんどを土の上に出していますが、原生地では塊根の下半分すべてが土に埋まっているようです。塊根部のひび割れ方にも個体差があり、突起がより大きくバランスが取れたものが評価され、好まれています。

亀甲竜の成長期は9月上旬から5月中旬であり、植物としては珍しく冬に生育します。夏の終わり頃からつるを伸ばして葉を展開し、冬と春を過ごした後、梅雨前につるや葉が枯れ、塊根のみとなります。成長期は、土がしっかり乾いたらたっぷりと水やりします。葉を落としている真夏の間は断水し、涼しく風通しのよい場所で管理します。塊根部は直射日光に長時間当てると風化し表面が傷んでしまうので、葉にはしっかり日を当てる一方、塊根部は遮光気味にします。また、冬は冷たい風にさらされると葉を落としてしまうので注意が必要です。



【 写真2 】

塊根部を土に埋めて育てると、原生地のように早く大きくすることができるそうですが、この塊根部のひび割れ具合を見て、日々“綺麗だなあ～”と感じていますので、いくら成長が早くなると言っても、これを土の中に埋めてしまうことはとてもできません。

8月7日現在の状態が写真2です。今は葉が落ちて寂しい姿をしていますが、よく見ると中心に筍の頭のような形をした真っ白な新芽が出てきているようです。毎日“おはよう、早く大きくなあれ”と声をかけながら様子を観察しています。あと2か月この記事を書くことになっているので、生育状況を報告したいと思います。興味のある方はご覧になってください。

（ 内科医師 越智拓良 ）



～病院での転倒について～

年を取ると転倒しやすくなる？

人間は必ず年を取ります。と言ってもそれだけでは転ぶわけではなく、加齢による筋力の低下・バランス能力の悪化・とっさの動きが出にくいなど様々な変化の上に転びやすくなります。

それでは、入院した患者さまのうち、どの程度転倒が起こるのでしょうか？

2017年の研究では、1日に1000人入院患者がいたとして、平均して2～3人が転倒している割合となるそうです。ただし、施設・病棟の役割により急性期よりも慢性期・回復期の患者の転倒率が高くなる傾向も知られています。

病院では転倒することが少なくなるようにいろんな工夫を行っています。

1：ベッド周囲の環境整備

今の電動ベッドはベッド高・足や頭の起こす角度を調節できるので、起き上がり・立ち上がりのしやすい位置を調節できます。L字型のベッド柵や、手をついても動かないよう固定式テーブルを組み合わせ、動きやすい導線を作っていきます。

2：履物の指導

今の病院では、どこもスリッパ禁止になっています。（踵が脱げやすいものは、つま先が引っかかりやすいため）また、原則として踵を踏んで歩くことや大きすぎる履物もご遠慮いただいています。

3：トイレへの導線

転んだ方がなぜ動かれたのか？理由として「トイレへ行くため」が一番多くなっています。動ける方には、部屋のレイアウトを変更し、チェストや椅子を使い少しでも手で持てる場所を提供しています。また、適切な歩行補助具（シルバーカー・歩行器など）を使っただき、安全で楽に動けるよう支援しています。

4：心理面

人間は基本自分で動きたいという欲求によって行動します。その方が普段どんな時に動くか予測して、ケアを工夫することが必要です。



現在は高齢者社会のため、認知症・せん妄患者の増加が考えられています。松山ベテル病院では、多職種が転倒リスクを評価しながら情報を共有し、お一人お一人の患者さまに適切な対応が取れるよう日々努力しています。今後も、転倒して骨折などの大けがにつながらないよう病院全体で転倒予防に取り組んでいきます。

（ 理学療法士 倉橋 和人 ）

外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

9月7日（水）、9月21日（水）

◎多田 聡 医師（神経内科）

9月1日（木）、9月15日（木）、9月29日（木）

◎吉田 暉 医師（神経内科）

9月8日（月）、9月22日（木）



ベテル病院 創立40周年！！

ベテルのホスピスケア

松山ベテル病院は今年で創立40周年を迎えました。創立以来、ホスピス精神を大切にして、ご高齢の患者さま、神経難病の患者さまやがんの末期の患者さまに寄り添う医療・看護を提供してまいりました。

中でも、がんの末期の患者さまにはベテル三番町クリニック、訪問看護ステーションベテルと連携して、患者さま・ご家族のご要望や状況に合わせて通院・入院・在宅療養を選択していただけるよう体制を整えております。これは、「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる」ことを目指した「地域包括ケアシステム」の実現にもつながるものです。

現在、このような聖愛会（ベテル）で提供しているホスピスケアを分かりやすく紹介したDVDを制作中です。完成時にはあらためてご紹介させていただきます。

法人事務局 経営企画課

新

人

紹

介

くろかわ しおり

黒川 栞

配属部署：3階東病棟

職 種：看護師

抱 負：今までの経験を活かしつつ、患者さまやご家族に寄り添った看護が提供できるように精進していきたいと思います。



ベ
テ
ル
句
会

焼きつきを

やぶつて吠る

蟬しぐれ

お裾分け

好物スイカに

頬ゆるむ

（ねこ丸）

（四季）

- ・投句箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
- ・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・掲載中の写真についてはご本人様、ご家族様の許可を得ています。

発行日 2022年8月25日